

知的障害者を対象とした農的活動等を組合せた学習プログラムの 持続的改善プロセスのデザイン

○前川 哲弥（NPO法人ユメソダテ 理事長/株式会社夢育て 代表取締役）
外山 純・天田 武志（NPO法人ユメソダテ）

1 夢育てメソッド

夢育ては、2022年10月から東京世田谷の夢育て農園において、知的障害のある成人青年受講生に週1回2時間半の学習機会を提供し成長を促す“人を育てる畑コース”に取り組んでいる。同コースで提供しているプログラムは、受講生をリラックスさせるとともに心身を活性化し¹⁾、認知発達を促すことを報告した²⁾。その後も、認知的成長を継続的に測定し^{3) 4)}、認知的成長が心理的安定を生み、次に行動の変化につながり、家族がその変化を感じていることも確認した⁵⁾。この夢育てメソッド⁶⁾は、身体発達を促す体操と、認知発達を促す座学、主体性を育てる夢語り⁶⁾と、農的活動から構成されており、前川他はこれらの成果を論文にまとめた⁷⁾。

他方、今後、同メソッドを、福祉事業所や障害者雇用企業に導入することを想定して、夢育てメソッドの継続的改善方法の導入と、夢育てアライアンスという緩やかな連携組織の立ち上げを進めている。

2 淡路式農作業分析表の導入による夢育てメソッドの持続的改善

人を育てる畑コース開講当初から、毎週木曜日のコース直後に講師が集まって開催している振り返りの会と毎週月曜日にその週の木曜日のプログラムの内容を話し合うプログラムを計画する会を開催している。

前者は、個々の受講生がその日のプログラムをどの程度理解し、どんな困難を抱えているかといった課題を確認する場である。そして後者は、前週の木曜日に明らかになった個々人の課題に対して、次の木曜日にどんな学習を用意し、どのように媒介する（学びを促す）のかについて話し合ってきた。これらの議論の場で、体操と座学といった基礎的な学びと農作業における応用的な学びの間の結びつきについてより客観的な評価を行うことを目指してきた。

そこで、2025年6月より、淡路式農作業分析表を用いた農作業分析を導入した。この分析表は、豊田ら（2016）⁸⁾が開発したもので、一つ一つの農作業について、①パターン化の有無、②必要な動作、③作業姿勢、④作業負担度、⑤両手の使用方法、⑥巧緻性、⑦作業中の主な注意の対象、⑧最多注意配分数、⑨危険度、⑩作業形態、⑪工程数、⑫条件数、⑬リスク管理上の注意点、⑭正確に作業を行うためのポイント、⑮作業速度を上げるためのポイントという

15項目にわたり細かく記述しつつ、分析を行う。

ある農作業を難なくできる人にとって、知的に障害のある人が作業のどの部分で躓いているのかを見極めることは容易ではない。手や足の巧緻性の問題なのか、作業中に注意を向けるべき箇所の理解や、収穫のように基準となる色や大きさとの比較といった認知上の問題なのかを理解するには、作業を分析して、どこで躓いているのかを明らかにすることが求められる。そこで、農作業分析を事前に行い、受講生が躓きそうな場面を事前に想定する作業を始めた。

例えばピーマンの収穫作業の分析では、以下のように受講生が躓きそうな箇所が明らかになった。

- ① 作業姿勢：しゃがむ力（上手く植物体の上から下に順序良く収穫対象を見いだすために必要）
- ② 作業中のおもな注意の対象：緑色の植物体の中から緑色の実を順序良く見つける力＝地と図の分離とsystematic searchの課題
- ③ 作業中のおもな注意の対象及び条件数：基準と比較する力（例えば長さ10cm以上の実を選ぶ力）spontaneous comparative behavior
- ④ 両手の使用、巧緻性、及び作業中のおもな注意の対象：柄に的確にハサミをあてる力＝認知的な参照点の理解、身体的な的確にハサミをあてる巧緻性

これらを踏まえて、足の柔軟性や手の巧緻性を高める体操をしたり⁹⁾、比較や点繋ぎの課題（点群の組織化）や図形の分解とくみ上げ（図形の部分を組合わせて全体を再構成すること）の課題（分析的知覚）¹⁰⁾をしたりすることで基礎的な力を準備することができる。これらに加えてピーマンの植物体の枝の伸び方や実のつき方の全体像についても事前に学んだ。更に、畑での作業にはマンツーマンで指導者がつき、一つ一つの作業を一人一人の認知身体機能に合わせて媒介することで、受講生に“できる”という成功体験をしてもらい、できる作業を増やしていつている。

またジャガイモ掘りについても同様に作業分析を行った。この作業は、認知的には、作業中の主な注意の対象：畝を崩すことをイメージできること（Orientation in space）、端から順序良く掘ること（Systematic search）、土の中からの的確に芋を見つけること（Clear perception）が特に大切で、運動機能的には、しゃがめること、及びそのまま横に移動できることが大切である。

これらを踏まえ、空間認知や端から順序よく作業するこ

とを促す座学を行い、体操では足の柔軟性の向上を重点的に行うことで、今春のジャガイモほりでは受講生が昨年よりも深く広く土を掘り、上手くジャガイモを見つけていた。

本稿執筆時点で淡路式農作業分析表を導入してから2カ月ほどが経過したが、緑の植物体から緑色のピーマンの実を見つけられなかった受講生が見つけれられるようになり、ピーマンの主幹を切ってしまっていた受講生が的確にピーマンの実の柄を切るができるようになる等受講生の農作業能力の向上に手ごたえを感じている。今後も、淡路式農作業分析表を用いて、基礎的な体操・座学と応用的な農作業との間に有機的でシステムティックな繋がりを一層高めていき（図1）、夢育てメソッドの継続的改善を続けていきたいと考えており、その成果は改めて報告する。

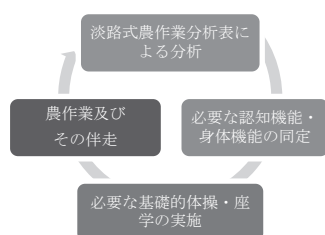


図1 夢育てメソッドの継続的改善プロセス

3 夢育てアライアンス

夢育ては、知的に障害があっても、成人していても、環境を整え、やり方を工夫すれば成長し続けることができることを、実例をもって示してきた。しかし、夢育てだけでは、成人知的障害者の学びの機会を社会に広げることにはできない。そこで、夢育てで用いている方法を夢育てワークショップを通じて、関心を持って下さる方々にお伝えするとともに、障害のある方にその方法を用いる際に伴走を行う“わかるをひろげる”事業を展開している。こうして学んだ方々は既に54名に達している。

そのうち特に意欲のある福祉事業所や障害者雇用企業、農家等と2024年10月夢育てアライアンス（図2）を結成した¹¹⁾。「成長の喜びと夢のある人生を全てのの人に」との理念の下、各メンバーは、その利用者や従業員に成長の機会を提供し始めている。本年8月～9月にかけて、その最初の取組みとして、千葉県内の福祉事業所1カ所と、障害者雇用をしている企業1社で、知的障害当事者の現在の認知機能を測るアセスメントを実施する予定である。その後、夢育てメソッドの全部又は一部を導入し、1年程度後に再度アセスメントを実施することで、彼らの認知的成長を測るとともに、彼らができる仕事の幅が広がる等の効果が得られるのかどうか検証していきたい。

これらの事例で成果をあげることができれば、知的に障害があっても成人していても、生涯にわたる学習に取り組むことの意義を広く理解してもらえるのではないかと期待

している。そして私たちは、この方法を農業以外の職場や作業所にも適用できるものと考えている。

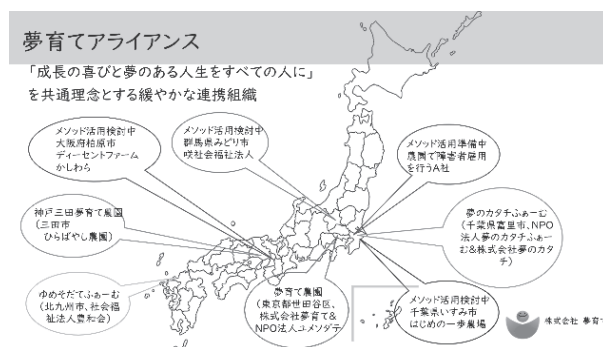


図2 夢育てアライアンス

【参考文献】

- 1) 前川、千葉、岡元、吉廣『畑作業と体操、座学を通じた学習が、知的障がいのある青年のストレスや心身の状態に与える影響について』JEED 第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集（2023）, p. 60-61
- 2) 外山、前川『畑作業と体操、座学を通じた学習が、知的障がいのある青年の認知発達に与える影響について』JEED 第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集（2023）, p. 62-63
- 3) 外山、前川『体操、座学、畑作業を組合わせた学習プログラムが知的障がいのある青年の認知発達に与える影響についての継続的な研究』JEED 第32回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集（2024）, p. 128-129
- 4) 外山、前川、天田『体操・座学・畑作業などを組み合わせた学習プログラムが知的障がいのある青年の認知発達に与える影響—3年間の取り組みを通して—』JEED 第33回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表予定（2025）
- 5) 前川、外山『体操、座学、畑作業を組合わせた学習プログラムの概要と知的障がいのある青年の行動変化及び生涯学習法としての活用可能性について』JEED 第32回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集（2024）, p. 130-131
- 6) 前川哲弥『夢を育て認知機能の伸びしろを評価・共有することを通じ、知的障害者の主体性を育て、積極的な職場文化を作る試み』JEED 第29回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集（2021）, p. 54-55
- 7) 前川、外山、天田、竹下、前川、豊田、山田、町田『知的障害者を対象とした農的活動を組み込んだ学習プログラムの開発と効果の検証』『食農と環境』No. 40（2025年10月発行予定）
- 8) 豊田 正博, 金子 みどり, 横田 優子, 浅井 志穂, 札埜 高志, & 城山 豊『知的障害者就労支援における農作業 分析と難易評価法の開発』人間・植物関係学会雑誌 15（2）1-10 2016年3月31日
- 9) 天田、外山、前川『知的・発達障がい者への農作業支援における運動プログラムの導入と効果』JEED 第33回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表予定（2025）
- 10) Feuerstein, R., Feuerstein, S., Falik, L & Rand, Y. (1979; 2002). Dynamic assessments of cognitive modifiability. ICLEP Press, Jerusalem: Israel.
- 11) 『障がいの成長を信じる「夢育てアライアンス」が全国に拡大 #1 夢育て農園のいま』ノウフクマガジン #164 <https://noufuku.jp/magazine/post-20250726/>

【連絡先】

前川 哲弥 株式会社夢育て、NPO法人ユメソダテ
e-mail : maekawa@yume-sodate.com